

例会報告：2016年11月15日（曇り）

第1957回 通常例会

❖ 会員誕生日

久保田 知子さん（11月21日）

❖ 結婚記念日

杉崎 勝成さん（11月17日）
 露木 清勝さん（11月18日）
 大川 裕さん（11月18日）
 大谷 宏さん（11月20日）
 小林 和彦さん（11月20日）
 阿久津 馨さん（11月21日）

❖ ニコニコ箱

一寸木 芳行 委員長

	ニコニコ箱	累計	目標
11月15日分	23,000	366,625	1,200,000

*結婚記念日

杉崎 勝成さん…結婚記念祝ありがとうございます。今後も仲良く過ごしたいと思います。

大谷 宏さん…結婚記念日のお祝いありがとうございます。20日の日曜日に金婚となり。50年間アツと言う間でした。家内の明子には50年間支えてもらい感謝あるのみです。

露木 清勝さん…結婚記念日のお祝いありがとうございます。また、昨日は大木 清さんが小田原市優良勤労者表彰を受けられました。職業奉仕を実践されてきた先輩のすばらしい活動に敬意を表したいと思います。

小林 和彦さん…結婚記念日のお祝いを頂きありがとうございます。日曜日に孫の七五三に行ってきました。多分32年目？だと思います。

阿久津 馨さん…結婚記念日のお祝い有り難うございます。50回目になります。

*その他

鈴木 友徳さん…永平寺と総持寺へ参拝してきました。

大木 清さん…小田原市優良産業勤労者として、小田原市より表彰を受けました。

■ ■ 今後のメークアップ情報 ■ ■

-2016年11月-

- ▶23日(水) 小田原北
- ▶24日(木) 小田原中 報徳会館 17:30
「定例年次総会・クラブ協議会」
- ▶25日(金) 湯河原 ニューウェルシティ湯河原 12:30
「会員による卓話」
- ▶25日(金) 足柄 おんりーゆー 12:30
「卓話：留学生による卓話」
- ▶28日(月) 小田原 報徳会館 12:30
「卓話：プログラム委員会」
- ▶29日(火) 箱根 休会
- ▶30日(水) 小田原北

-2016年12月-

- ▶1日(木) 小田原中 報徳会館 12:30
- ▶2日(金) 湯河原 ニューウェルシティ湯河原 12:30
「会員による卓話」
- ▶2日(金) 足柄 おんりーゆー 12:30
「クラブ協議会：年次総会・次年度理事・役員選出」
- ▶5日(月) 小田原 報徳会館 12:30
年次総会
- ▶6日(火) 箱根 宮ノ下富士屋ホテル 12:30
年次総会・クラブ協議会
- ▶7日(水) 小田原北
- ▶8日(木) 小田原中 報徳会館 12:30
クラブフォーラム（半期報告・委員会報告）
- ▶9日(金) 湯河原 ニューウェルシティ湯河原 12:30
「出前講座②」
- ▶9日(金) 足柄 おんりーゆー 12:30
「クラブフォーラム」

【小田原城北ロータリー・クラブ】
 事務局：〒250-0211 小田原市鬼柳172-9
 電話：0465-37-1222 FAX：0465-37-7377
 URL：http://www.odawarajhrc.jp
 Mail：info@odawarajhrc.jp
 例会場：小田原卸センター内会議室
 創立：1976年4月2日 承認：1976年5月8日
 例会：毎週火曜日 12:30～13:30
 クラブ会報委員会
 監修：櫻井 康二
 編集長：小林 和彦
 コピーライター：小林 和彦
 デザイン：小林 和彦
 フィールド：大川 久弥

会員数：38名



RAC
会員募集中

相応しい会員をご紹介ください！



国際ロータリー第2780地区

小田原城北ロータリー・クラブ

R.I. DISTRICT No.2780
 ODAWARA JOHOKU R.C.
 2016-2017
 WEEKLY BULLETIN



【R.I. 会長】
 ジョン・ジャーム
 【R.I. 2780地区ガバナー】
 佐野 英之
 【第9グループガバナー補佐】
 高田 喜好



【会長】辻村 彰秀
 【副会長】阿久津 馨
 【幹事】櫻井 康二
 【副幹事】荻野 善明
 【会場監督】小川 和夫

人類に奉仕するロータリー

ROTARY SERVING HUMANITY

本日の例会：通常例会（第1958回）

会場：小田原卸センター内会議室
 日時：2016年11月22日 12:30～13:30
 司会：荻野 善明 副幹事

12:30	開会点鐘：辻村 彰秀 会長 ロータリーソング斉唱 「手に手つないで」 スピーカーおよびビジターの紹介 慶事祝福 会長挨拶 幹事報告／出席報告／委員会報告 同好会報告／ニコニコ箱 閉会点鐘：辻村 彰秀 会長
13:00	クラブフォーラム：R財団

【今後の例会・卓話スケジュール】

- 11月29日(火) 通常例会 12:30
卓話：吉本芸人 スペリー・マーキュリー様
「地元出身の吉本芸人として」
- 12月6日(火) 通常例会 12:30
クラブ協議会（年次総会）
- 12月13日(火) 忘年家族会（夜間）
会場：大磯迎賓館
受付：17:00～17:30
例会：17:30～18:00
宴会：18:00～20:00
会費：R会員 10,000円
R家族 8,000円
Rアクト 8,000円
- 12月20日(火) 通常例会 12:30
卓話：フリーアナウンサー 石田 江利様
「私がアナウンサーになったきっかけ」
- 12月27日(火) 休会

■寄稿 (2)

ロータリークラブには「識字率向上月間」というものが定められています。現在では9月ですが、何年前までは7月でした。この「識字」という文字を見ていると次のことを思います。

江戸末期に、アジア諸国を植民地化しつつ、わが国に進出して開国をせまった欧米列強は、わが国の人々の識字率や生活文化の高さに驚きました。そして勤勉なこと、家庭や地域における節度や努力、自然を大切にすることにも感服しました。因みに開国までの徳川時代の特殊さは、知識階級が都会におらず、地方にいたことです。300諸侯がこぞって藩士に学問を奨励したために、五・六万石以上の大名の城下町は、知識人の密集地という具合にまで幕末にはなったそうです。城下町小田原もそうです。

江戸時代末期のわが国の識字率は約50%といわれています。当時ロンドンで20%、ヨーロッパでは2～3%だったそうです。

欧米列強は日本に接触して「とてもこの国は植民地には出来ない。」と諦めたそうです。つまり「識字率」が防衛力そのものだったのです。

RIが推奨する社会奉仕向上をはじめ、環境保全、新世代対策、薬物乱用防止など、さまざまなプログラムがあります。皆様一緒に勉強しましょう。

大谷 宏

会場：小田原卸センター内会議室
日時：2016年11月15日 12：30～13：30

◆ 会長挨拶



辻村 彰秀 会長

皆さん、こんにちは！先週から今週にかけて和らいでいた寒さも、又、週末に向けて戻ってくるそうです。インフルエンザも流行りだしているそうなので、寒暖差で体調を崩さぬようご注意ください。

本日11月15日は七五三の日です。お祝いするお子さん、お孫さんがいられる方は、おめでとうございます。

先週の例会翌日の11月9日に、アメリカ大統領選挙人選挙にて、共和党のドナルド・トランプ氏が過半数の270名以上の選挙人を獲得することが明白になりました。この後、12月19日の投票でこの270名を超える選挙人が、トランプ氏に投票すれば、来年の1月20日に第45代アメリカ合衆国大統領に正式に就任します。

皆さんもご存知のように、アメリカだけではなく、日本、世界中のほとんどのマスメディアは、民主党候補のヒラリー・クリントン氏を支持し、トランプ氏の女性蔑視発言を始めとして、人種差別の数々の問題発言、ヘイトスピーチのような発言等を大々的に取り上げ、大統領にふさわしくないとして報道し、トランプ支持のメディアはほとんどなかったです。又、全米での総得票数では民主党ヒラリー氏のほうが多かったのですが、選挙制度もあり、予想に反してトランプ氏は勝利しました。私も僅差でヒラリー氏が勝つのではと思っていました。今後の日米関係、世界経済がどうなっていくのか非常に心配です。ただ、このような結果になったのは、先のEUからの英国の離脱や、フィリピンの新しい大統領と同様に、従来の政治、政治家、マスコミへの一般市民、大衆の不信感、不安や反発が相当たまっていたからではないかと思っております。

歴代大統領の中では、議員、州知事等の政治家として実務経験もなく、軍人にもなった経験もない人物、セレブなビジネスマンが大統領になるのはアメリカ建国史上初となります。又、大変なお金持ちですが、今回の選挙活動の費用は、他の候補者がウォール街や大企業から大口の献金をもらっていたのに、彼は自己資金を使って、非常に少ない資金で戦ったそうです。トランプ氏もあれだけのビジネスで成功された優秀なパワフルな方ですので、“地位が人を作る”の諺とおり、アメリカだけではなく、日本、民主主義、又、世界平和にとって素晴らしい大統領になる事を祈念しています。

最後になりますが、河野会員がお亡くなりになり、現在当クラブ会員数は38名となりました。会員の減少はクラブ運営には大変な問題ですので、さらなる入会者の勧誘、ご紹介を皆さんにお願いいたします。

以上、本日の会長挨拶でした

◆ 幹事報告



櫻井 康二 幹事

- 1)活動計画書のカレンダー訂正をポストインしました。宜しくお願いします。
3月7日：卓話→定例理事会 卓話
3月14日：定例理事会 卓話→夜間例会（お花見例会）
- 2)「ハイライトよねやま」を掲示しました。宜しくお願いします。

◆ 出席報告

本多 純二 委員

出席報告	会員数	出席	M.U	出席率
11月15日	38(35)	23	1	68.57%
11月8日	38(36)	29	0	80.56%
10月25日	39(36)	25	2	75.00%

【欠席者】12名

- 柳井 渉、大川 裕、清 康夫、内山 修一、久保田 知子、木村 啓滋、志澤 昌彦、長田 英一、齋藤 永、大高 英之、内山 昇、大野 英明

【今回MU】1名

- 柳井 渉 (11/15 財団委員会)

【前回MU】増加なし

【前々回MU】増加なし

◆ Table flower

- スプレーカーネーション
- ベビーハンズ
- アルストロメリア
- リュウココリーネ
- ヒペリカム

【花言葉】

スプレーカーネーション：「感動」

アルストロメリア：「持続」

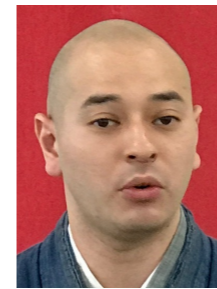
リュウココリーネ：「温かい心」

ヒペリカム：「きらめき」



◆ 卓話

「僕がお坊さんになるまで」



願修寺住職 岩山 知実様

私は生まれが日本で父親がドイツ人です。両親の『ドイツの教育を受けさせたい』という希望で、生後6か月でドイツに渡り高校までドイツの義務教育を受けました。その後、選択肢としてはドイツの大学、日本の大学とありましたが、ずっとドイツにいたからこそ、半分は日本人です。日本の教育を受けてみたいと思

い、日本の大学を受験することにしました。自分を大学に売り込むという新しい形態のAO入試に挑戦し、合格することができました。当時ドイツにはまだ兵役があって、日本の大学に行くので免除をお願いしますと政府に書面で送ったら奇跡的に受理されました。99%そういった申請は拒否されるので、本当に奇跡だったと思います。

日本での大学生活は、東京の実家から2年間通い、1年間はお寺から通い、最後の1年は卒論でまた実家から通いました。私が大学で専攻したのは主に国際政治・国際経済で、今やっていることとかなりかけ離れています。そんな私がこうしてお坊さんになった因縁、きっかけには色々な影響が混ざっています。大学時代には友人と一緒に会社を始めたり、他の会社で見習いとして働いたりしました。学生のうちに自分は何をやりたいのか、これだけは絶対に見つけようと思って大学4年間を過ごそうと決めていたのです。初めの1、2年目はインターンシップをしながら、そして自分で会社を立ち上げて、考えました。当時はトイレトペーパーに広告を載せるという事業に携わっていて、その中で色々な大先輩方にお会いすることができました。そういう方々と一緒に行動・活動している中、何か自分の中で引っかかる部分があったのです。自分の親も独立し、自分の事業を立ち上げて、家族皆健やかに育ち、何の問題もないはずなのに。私の事業にも何の問題もないはずなのに、何か引っかかっていました。その引っかかりは『もし私が大学を卒業して企業に勤める、若しくは自分の会社を設立して社会と交流する、その時何かがあったら自分は心の中に大黒柱が備わっているのか？』の心配です。心の土台が出来ていないのに社会へ羽ばたいていいのか？例えばお金や権力・欲望に流されて、社会のためになろうとしたのが、社会を食い潰すような人材になってしまうのではないかと。そういった心配がどうしても心を離れなかったのです。そこでお坊さんになるというのは極端な選択肢かもしれませんが、元々の環境もあります。私の父はドイツ人ですがずっと座禅を続けていました。その背中を見て育ち、小さい頃から一緒に座禅を組むこともあり、父の影響と、自分の心の大黒柱が欲しいとの考え、二つが出家した大きな理由かと思えます。大学卒業後、静岡県三島市で6年間僧堂に入りました。僧堂とは相撲部屋と自衛隊の間のような場所です。絶対的な縦社会で小僧には人権がないに等しい状態です。元々高い志を持って入門しても、実際は毎日叱られ朝から晩までこき使われ、掃除をして座禅を組んでお経を読んでのひたすらくり返して、足元を見る余裕もなかったのが最初の3年間でした。がむしゃらに無我夢中で修業していましたが、3年経ってようやく少しだけ自分がどこにいるのか気づき始めました。後半は少しでも何か自分の大黒柱になるものが見つからないかという探しの日々でした。

三島では龍澤寺という僧堂でしたが、その後小田原に移ります。修行の同期に小田原のお寺の息子がいて、その関係で私は小田原に空き寺を探しました。空き寺は非常に多いのですが、それは『食っていけないから空いている』ということです。そして城山の小さなお寺、檀家が片手の指で数えられるような小さなお寺に身を置く決断をしました。今は願修寺の住職となりこれからは小田原でお寺を保持しようと思っていますので、よろしくお祈りします。

6年間の修業は慌ただしいものでした。年に8回、集中座禅という集中修行期間が設けられています。1回が1週間朝3時半から夜11時まで座禅しっ放しなのです。そこにはお坊さんだけでなく一般の方も参加でき、条件としては自分の心に何か違和感や満たされない気持ちを持っている人です。芸術家も経営者も様々な方がいました。昔から宮本武蔵や千利休など、今日の前にあるものを深めたいから座禅を一つの手段として使う人はいました。それと同じ考えの方々が私たち雲水と一緒に修行されます。フランスやドイツ、アメリカからも、静岡の不便な場所に各国から集まって切磋琢磨するのです。フランス人に驚いたのは皆さんクリスチャンだということ。何故かという自分の信仰を深めるためなのです。キリストへの信仰を深められる確信があるからです。到着してすぐに修行に入り、終了した日にすぐに帰国します。貴重な休みを座禅に当てる、家族や趣味でなく座禅に費やす、しかもクリスチャンの方たちが。そこに感銘を受け、自分の大黒柱のヒントになりました。それぞれの世界に専門家がいて、その技術や力で自分を表現する。お坊さんである私ができることは禅の話をし、座禅をすることだけです。

座禅には宗教を超える普遍性があります。座禅とは何でしょう？子供の頃、外で遊んで帰宅すると体の汚れを取るためにお風呂に入ったでしょう。体が汚れたらそうやってきれいにします。では心が汚れたらどうやって洗浄しますか？その時に私たちは座禅をします。心のシャワーなのです。心が汚れるのはどういう時でしょうか？悲しみや怒り、思い通りにいかない悔しさなど色々あります。人間は1日に3万回も気持ちの変動があるそうですが、どうやって清浄を保つか、鎮めることができるかを考えると私たちは座禅をします。座禅は足が痛くなる、眠くなる、雑念が湧いてくる。じっと座る、思考を止めてじっと座る、これは並大抵のことではありません。とても難しいものです。今日は皆さまの人生の30分ほどをお預かりしました。ぜひ最後の5分間、椅子のまま構いませんので、静かに座っていただきたいと思えます。ただ座るのではなく、目は開けたままテーブルの中央を見て、手は膝の上、呼吸を吐く時に1、吸って次に吐く時に2、と数え、10までいったら1に戻ります。必ず考え事が襲ってきますが、雑念が湧いてきたらまた1から始めてください。静けさには私の話よりも説得力があると思えます。少しでも生活の中に静かにじっと自分を見つめる時間を設けていただければと願っています。

